

批判的思考を働かせ社会との関わりを追究する子どもを育てる社会科学習指導

～論題に沿った考えの構成・再構成活動を通して～

所属機関 八女市教育研究所
 所属校 八女市立上妻小学校
 職・氏名 教諭 池田 健太

1 主題の意味

(1) 「批判的思考を働かせ」とは

社会的事象の事実に基づき複数の立場や意見を踏まえて社会的事象の意味を論理的に考えたり、自分の考えの確かさを意識的に吟味したりすることである

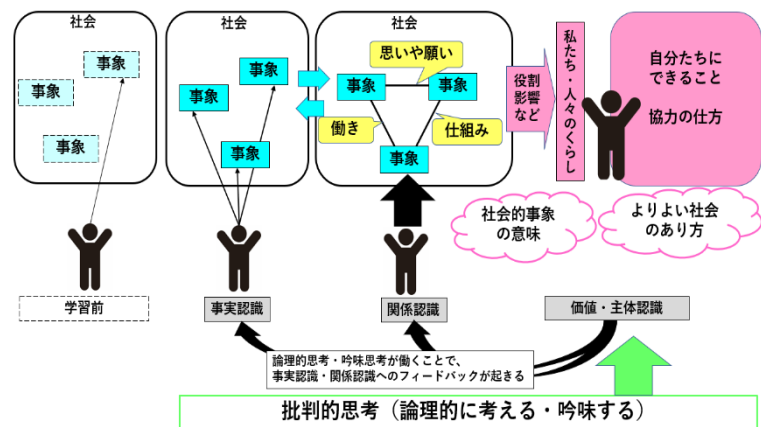
(2) 「批判的思考を働かせ社会との関わりを追究する」とは

社会的事象と自分が生きる社会とのつながりを見出し、社会的事象の意味を多角的に捉えたり、自分や他者にとってよりよい社会の在り方を考え、表現したりする思考の過程を論理的・吟味的に行うことである。

社会的事象の意味を多角的に捉えとは、社会的事象の仕組みを明らかにし、複数の立場から社会における働きや国民にとっての役割を見出し、明らかにすることである。自分や他者にとってよりよい社会の在り方を考え、表現したりするとは、複数の立場に立ち、自分のできることは何か、よりよい社会の在り方はどのようなものか考え、表現することである。

社会との関わりを追究する思考の過程と批判的思考の関連を詳しく図に示すと【資料1】のようになる。社会科の学習における社会的事象の認識の高まりに沿って、批判的思考は、どの過程でも働くものである。

中でも、価値認識・主体認識の段階においては、自分の事実認識・関係認識が基になるため、批判的思考が働くことにより、それまでの自分の認識へのフィードバックが起こる。その結果、複数の立場から事実を整理し客観的に考えようとしたり、自分が捉えてきた事実や事実同士の関係は正しいか振り返ったりしながら、社会認識をより深めることができる。



【資料1】 批判的思考と社会との関わりを追究する思考の過程との関連

(3) 「批判的思考を働かせ社会との関わりを追究する子ども」とは

知識及び技能	社会的事象について、多角的な見方で必要な情報を収集、調査することで事実を捉え、事実を関係づけて仕組みや働きを理解したり、理解したことをまとめたりすることができる子ども
思考・判断・表現	社会的事象について、多角的な見方から問題を見出し、複数の立場や意見を踏まえて意味を判断したり、よりよい社会のあり方を考え、表現したりすることができる子ども
学びに向かう力・人間性等	社会的事象に問題意識をもち、自分の考えに誤りや偏りがなく振り返りながら粘り強く追究し、社会的事象の意味を明らかにしようとしたり、自分や他者にとってよりよい社会の在り方を考えようとしたりする態度を身につけた子ども

2 副主題の意味

(1) 「論題」とは

社会的事象を自分事として捉え、既存の知識や生活経験をもとに、社会的事象の意味を多角的に考える問題である。

(2) 「論題に沿った考えの構成・再構成活動」とは

論題に対し、複数の立場を想定し自分の立場を決め、既存の知識を振り返ったり、新たに資料を調べ直したりして考えをつくる「考えの構成」という第一段階と、他者との関わりによって得た事実や価値観を踏まえて、自分の考えを調整して結論を明らかにする「考えの再構成」という第二段階のことである。

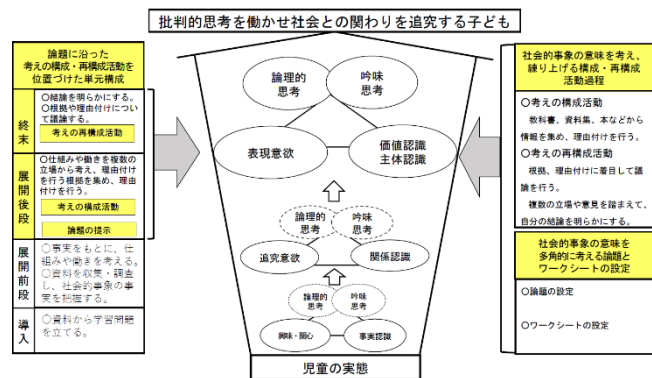
3 研究の目標

批判的思考を働かせ社会との関わりを追究する子どもを育てるために、論題に沿った構成・再構成活動を仕組む授業づくりを究明する。

4 研究の具体的構想

(1) 論題に沿った考えの構成・再構成活動を位置づけた単元構成

単元を導入、展開前段、展開後段、終末の4つの段階に分け、論題に沿った考えの構成・再構成活動を、展開後段から終末に設定する。展開後段のはじめに、論題を提示し、終末にかけて論題に沿った考えの構成・再構成活動を行う。展開後段から活動を仕組むことによって、自分の事実認識、関係認識を振り返りながら、価値・主体認識へと高めていくことができる。



【資料2】単元における位置づけ（研究構想図）

(2) 社会的事象の意味を考え、練り上げる構成・再構成活動過程

段階	活動	活動内容	学習形態	方法
展開後段	考えの構成活動	① 自己の主張に必要な事実・データを集める。 ② 事実・根拠に対して自分なりに理由付けを行う。	個人	・教科書・資料集の資料から、必要な情報を取捨選択する。 ・教科書・資料集以外にも、情報が必要な場合は、インターネットや本から調べる。
終末	考えの再構成活動	議論	グループ	・まず、同じ立場同士で、次に異なる立場同士でペアまたはグループをつくる。 ・矛盾点や疑問点を見つけるために、自分の考えと比較しながら聞く。
		結論づける	ペア 個人 ↓ 個人	・他者が活用した資料を確かめたり、自分の主張に活用したりしたい場合は他者に尋ねる。 ・指摘された矛盾点を修正するために必要な情報は教科書・資料集・インターネット・本等で調べる。

(3) 社会的事象を自分事として捉え、多角的に考える論題とワークシートの設定

① 論題の設定

「既習内容の知識、単元展開前段までに獲得した社会的事象の事実、生活経験を用いて考えることができること」「明確な答えはなく、多角的な立場を想定し、立場によって判断が分かれること」の二つの性質をもつように設定する。

② ワークシートの設定

「対話型論証モデル」を参考にしたワークシートを活用する。

7 研究の実際 (※実践Ⅱ「明治の新しい国づくり」(令和5年11月実施)は省略)

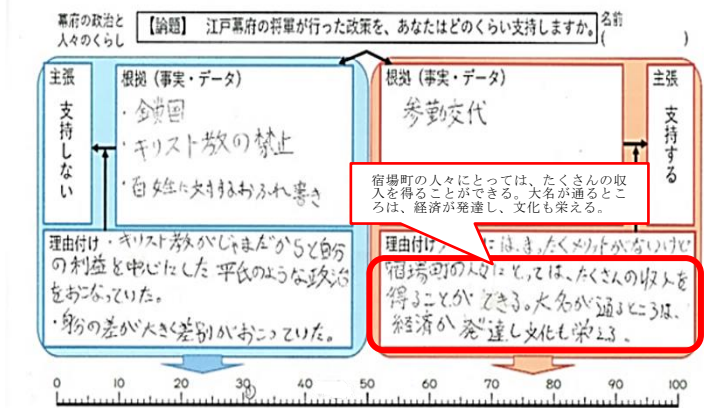
[実践Ⅰ]

- (1) 単元 「幕府の政治と人々の暮らし」(令和5年10月 6年2組実施)
- (2) 目標 (省略)
- (3) 本単元指導の実際と考察

【目指す子どもの姿】	
考えの構成活動	論題に対し、自分の考えを明確にするために、既習事項や新たな資料から事実を整理して、理由を明らかにすることができる。
考えの再構成活動	江戸幕府の政策に着目して、その働きや影響を比較して考え、論題に対する自分の考えの根拠や理由付けについて議論し、幕府としての立場や大名もしくは人々としての立場を踏まえて、自分の結論を明らかにすることができるようにする。

考えの構成活動

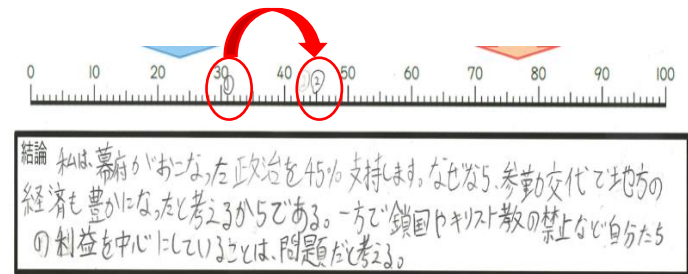
【資料3】は、A児のワークシートである。参勤交代が人々(庶民)や社会に与えた影響として、教科書には五街道の発展等が示されているが、さらに詳しく調べるため、A児は図書館の本をもとに参勤交代について調べた。すると、本から「宿場町の人々にとっては、大名行列のつくお金が、大きな収入になっていた。」という記述を見つけ、「大名が通るところは、経済が発達し、文化も栄える」と理由付けを行った。



【資料3】A児のワークシート(考えの構成活動)

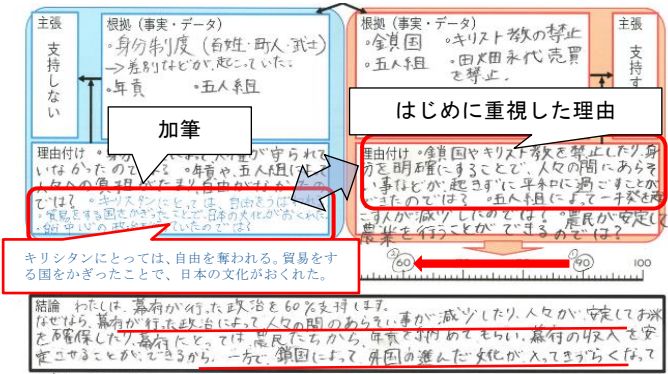
考えの再構成活動

3~4名のグループで議論をしたのち、最終的な結論を明らかにした。【資料4】はA児の結論ある。A児は、支持率が30%から45%に増加しており、参勤交代による地方経済の発展を支持する理由として、キリスト教の禁止等と支持しない理由として活用したうえで、政策の問題点を指摘した。



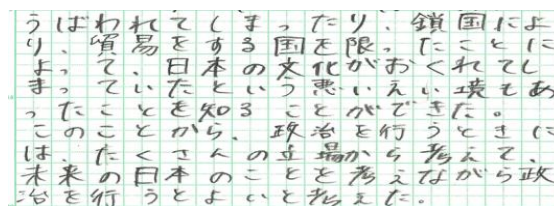
【資料4】A児の結論(考えの再構成活動)

【資料5】はB児のワークシートである。議論で得た情報をもとに、囲みのように加筆している。B児は、考えの構成段階では、90%の支持率だったが考えの再構成段階では最終的に60%まで減少した。はじめ、「鎖国は世の中の平和につながった」という理由から支持できる政策として捉えていたが、友達との議論を通して、他国に遅れをとることにつながったという理由を加筆し、結論に活用した。



【資料5】B児のワークシート

授業後、本単元の学びの振り返りを記入させた。B児は、幕府の政策が社会に与えた影響についてまとめたうえで、「たくさんの立場から、未来の日本のことを考えながら政治を行うとよい。」と振り返りに記入した。【資料6】



【資料6 B児の振り返り】

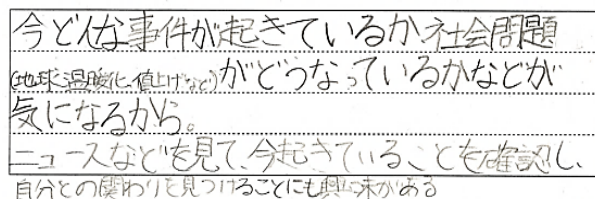
【考察】考えの構成活動において、資料から新たな事実を見つけたり、立場を明確にして理由を明らかにしたりする児童の姿から、論理的に社会的事象の意味を明らかにしていることが分かる。また、考えの再構成活動において、議論を通して友達の考えを受けて、政策の捉えを変化させる姿がみられた。また、振り返りにはB児のように為政者はどのような政治を行うべきかを記述したりするものが多く見られた。このように、児童が社会的事象の意味を多角的に調べたり、自分の考えを吟味したりしながら、社会の在り方を考える姿から考えの構成・再構成活動は有効だったと考える。

8 全体考察

(1) 批判的思考を働かせる社会との関わりを追究する子どもの姿について

批判的思考に関わる「論理的思考・吟味思考」についてアンケート調査を行った。「一つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとしている」という質問について、「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した児童が実践前の28%から66%に増えた。また、「2つの考えのうち、どちらかを決めるときにはできるだけ多くの証拠を調べる」については、実践前の55%から76%に増えた。

また、「社会で起きている出来事に対して、興味があるか」との問いに対して、約9割の児童が「ある」と答えた。【資料7】はその理由としての記述である。下線のように社会で起こった出来事と自分との関わりを見つけようとする意識が見られる。



【資料7 社会との関わりを意識する記述】

以上のデータとこれまでの実践から、主題に目指す子どもが育成できていると考える。

(2) 論題の沿った考えの構成・再構成活動から

① 論題に沿った考えの構成・再構成活動を位置づけた単元構成

展開後段から終末に位置づけたことで、自分が捉えてきた事実、関係を振り返りながら、社会的事象に対する自分の考えを明らかにすることができた。

② 社会的事象の意味を考え、練り上げる構成・再構成活動過程

議論により、自分にはなかった立場に気づくことができ多角的な捉えをしたり、自分の考えの確かさを友達に尋ねるなどして慎重に考えようとしたりすることができた。そして、自分の考えを調整したり、複数の考えを統合したりして結論を明らかにすることができた。

③ 社会的事象の意味を多角的に考える論題とワークシートの設定

二つの性質をもった論題を設定したことにより、立場による社会的事象の捉えの違いを明確にし、複数の立場の人々が納得できる社会の在り方を考えることにつながった。また、ワークシートを用いることで、事実と理由を区別しながら、一つの立場にこだわるのではなく、複数の立場から事象を捉えようとする姿につながった。

9 残された課題

- 年間を通した「論題に沿った考えの構成・再構成活動」を行う単元の検討